

## 県民等の文化行政に関する意識調査結果

### <調査の目的>

群馬県文化振興指針(仮称)の策定にあたって、本県の文化行政に対する県民等の意識を調査しました。

### <調査対象>

#### 1 アンケート調査

- (1) 個人
- ・県内在住の満20歳以上の男女(県民) 2,000標本 → 513標本(回収率25.7%)
  - ・県内大学生 400標本 → 209標本(回収率52.3%)
  - ・県内高校生 401標本 → 401標本(回収率100%)

- (2) 企業 1,500標本 → 381標本(回収率25.4%)
- ・群馬県内に本社を置く企業
  - 直近(平成23年3月末まで)の売上高10億円以上

- (3) 文化団体 400標本 → 186標本(回収率46.5%)
- ・県民芸術祭参加団体、市町村文化協会、県の後援事業実施団体、過去に県が助成した団体、文化芸術・まちづくりNPO法人

- (4) 文化施設 143施設 → 83標本(回収率58.0%)
- ・文化ホール61施設及び美術館・博物館等82館(県立を含む)

- #### 2 聞き取り調査 21カ所 → 県有施設 942標本、県有施設以外 1,086標本
- ・県有施設：県立美術館・博物館5館、県有施設5施設
  - ・県有施設以外：商業施設3施設、観光施設3施設、観光地3ヶ所、中心市街地2ヶ所

### <調査期間>

- 1 アンケート調査 平成24年7月～8月  
2 聞き取り調査 平成24年7月～8月

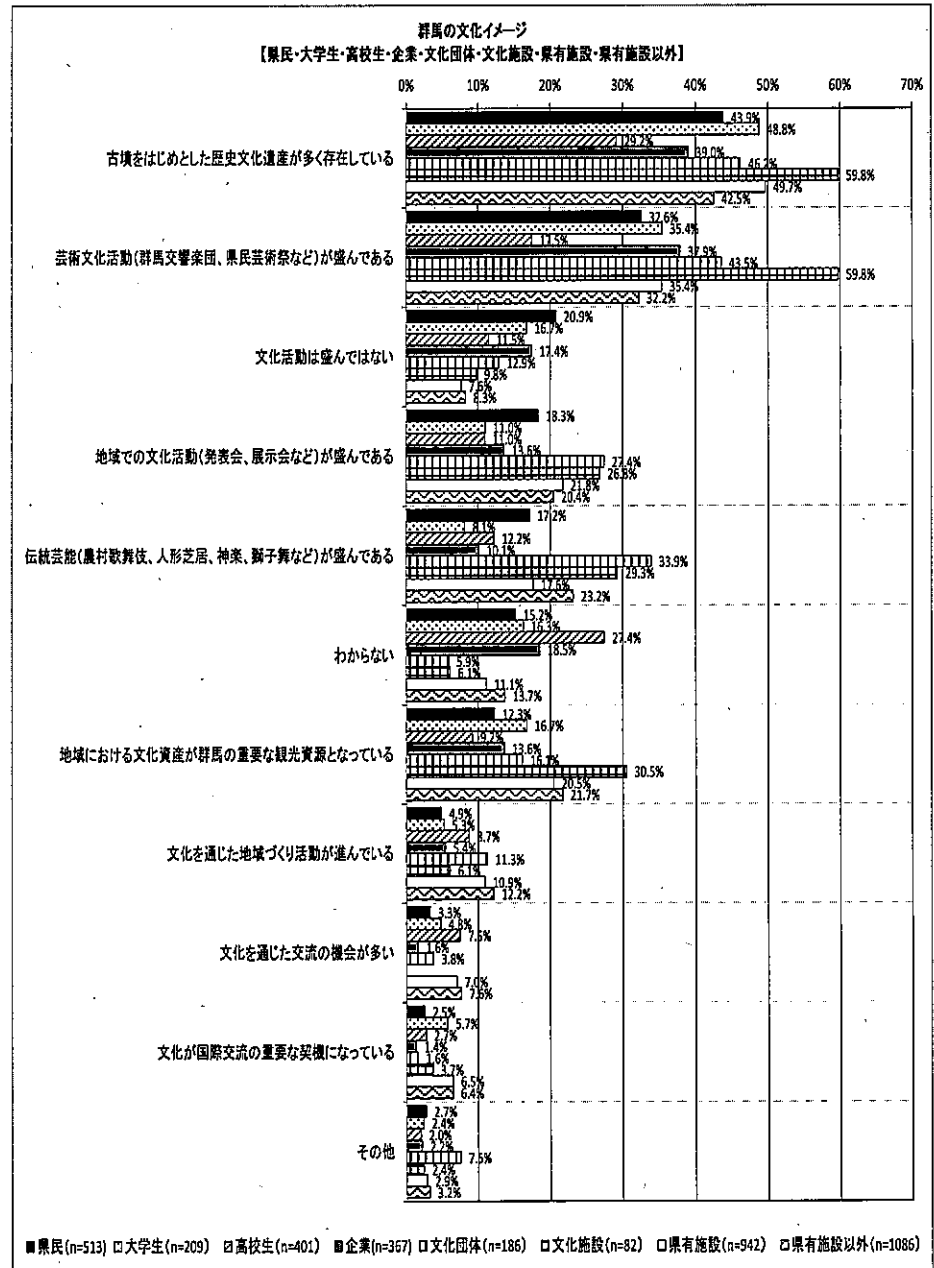
## アンケート概要

### 1 群馬の文化イメージ

全区分において「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している(県民43.9%)」が最も高い割合となっており、次いで高校生を除き「芸術文化活動(群馬交響楽団、県民芸術祭など)が盛んである(県民32.6%)」となっています。

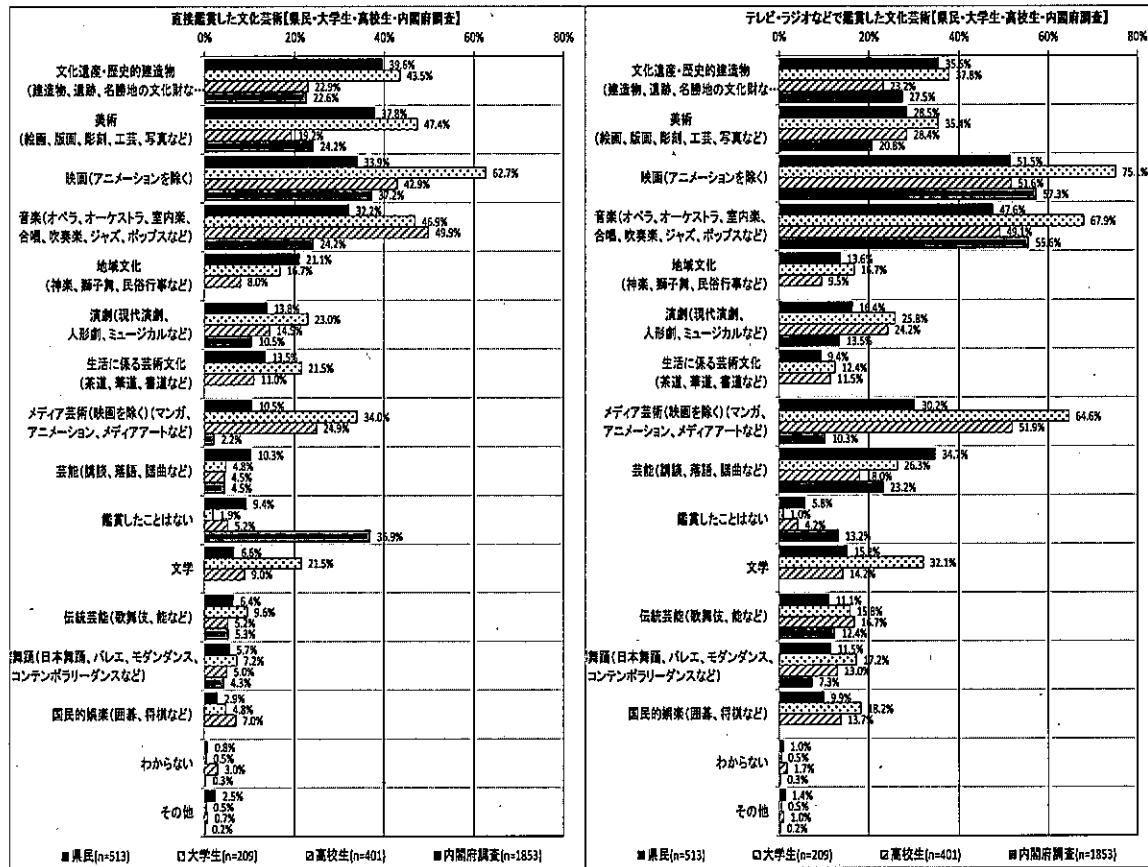
一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている(県民12.3%)」や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる(県民4.9%)」と回答した割合は低く、地域の文化資産が観光・地域振興に結びついていないことがうかがえます。

※グラフ中の「n」は、設問に対する有効回答数を示しています。以下のページも同じです。



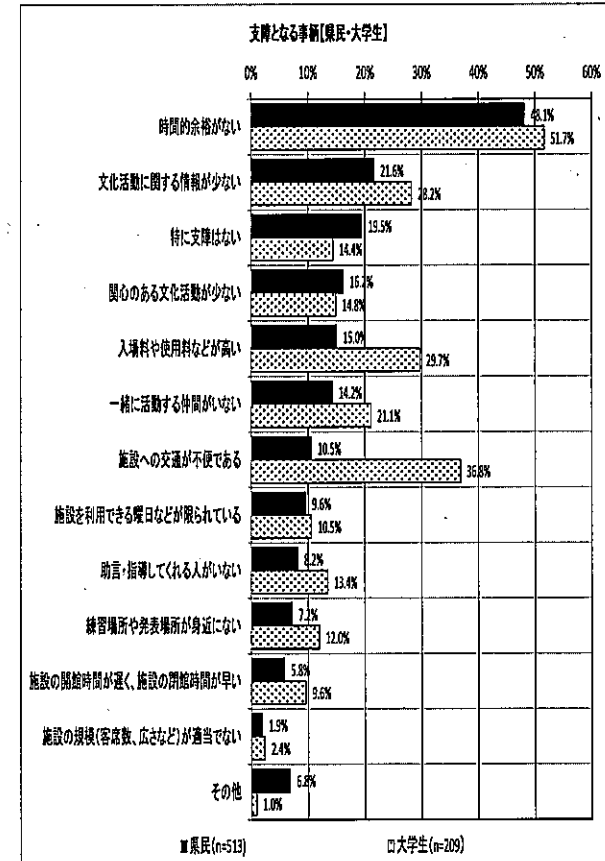
## 2 この1年間に鑑賞した文化芸術

直接鑑賞した文化芸術は、県民では「文化遺産・歴史的建造物」（39.6%）、大学生では「映画」（62.7%）となっています。一方、テレビ・ラジオなどで鑑賞した文化芸術は、全ての区分において「映画」が最も多くなっています。



## 3 文化芸術活動を行う上での支障

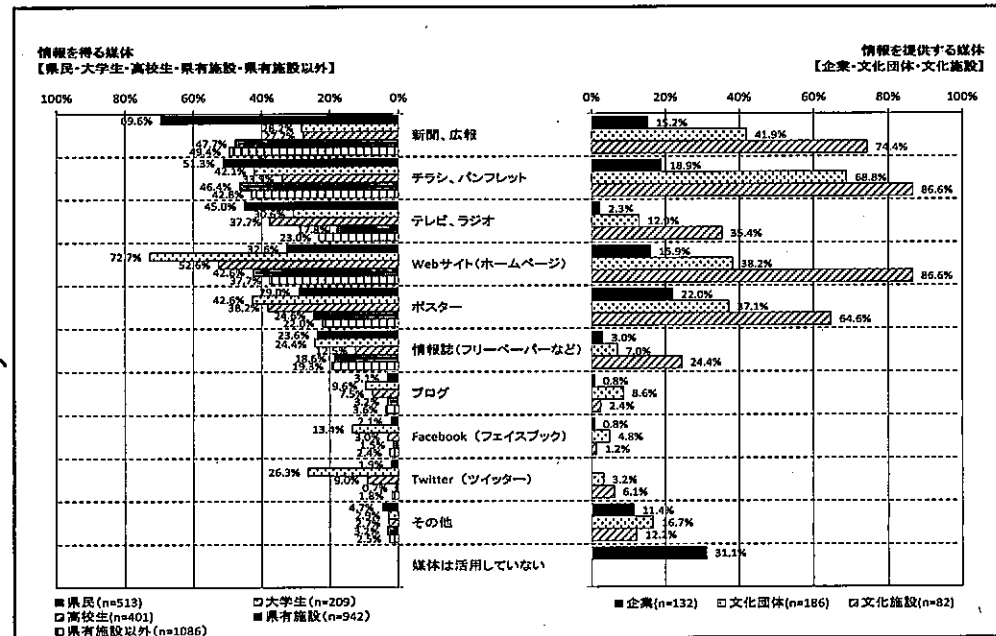
「時間的余裕がない」が県民(48.1%)、大学生(51.7%)ともにそれぞれ一番高くなっていますが、「施設への交通が不便である」では、県民(10.5%)と大学生(36.8%)では、26.3ポイントもの差があります。



#### 4 文化芸術活動に関する情報媒体

情報を得る媒体として、県民、県有施設、県有施設以外では「新聞、広報」(69.6%)(47.7%)(49.4%)、大学生、高校生では「Webサイト」(72.7%)(52.6%)がそれぞれ最も高くなっています。

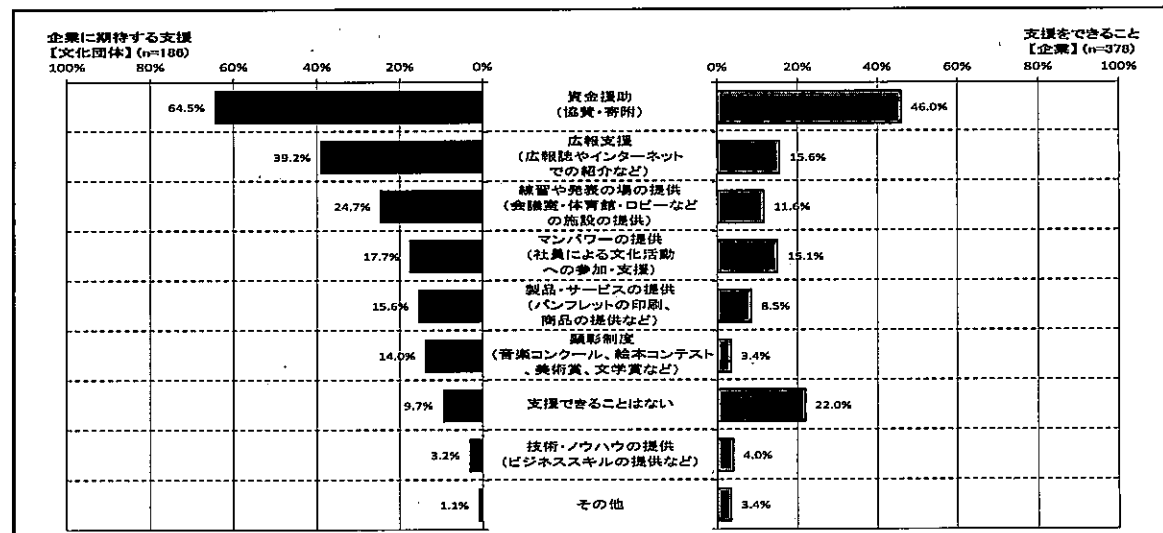
これに対し、情報を提供する媒体は、企業では「媒体は活用していない」(31.1%)、文化団体では「チラシ、パンフレット」(68.8%)、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Webサイト」(86.6%)となっており、情報の提供・取得する媒体において相違があることがうかがえます。



#### 5 文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

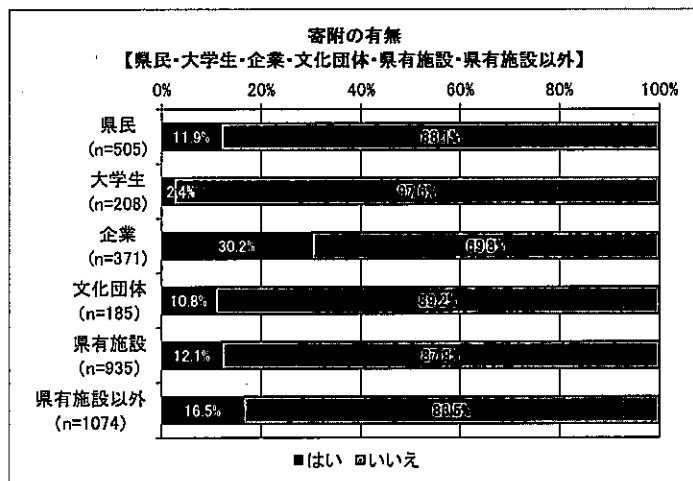
文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」(64.5%)が最も高く、次いで「広報支援」(39.2%)となっています。

これに対し、企業が支援をできることでは「資金援助」(46.0%)が最も高く、次いで「支援できることはない」(22.0%)「広報支援」(15.6%)となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることがうかがえます。



## 6 この1年間の文化芸術活動に関わる寄附

企業については30.2%が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。



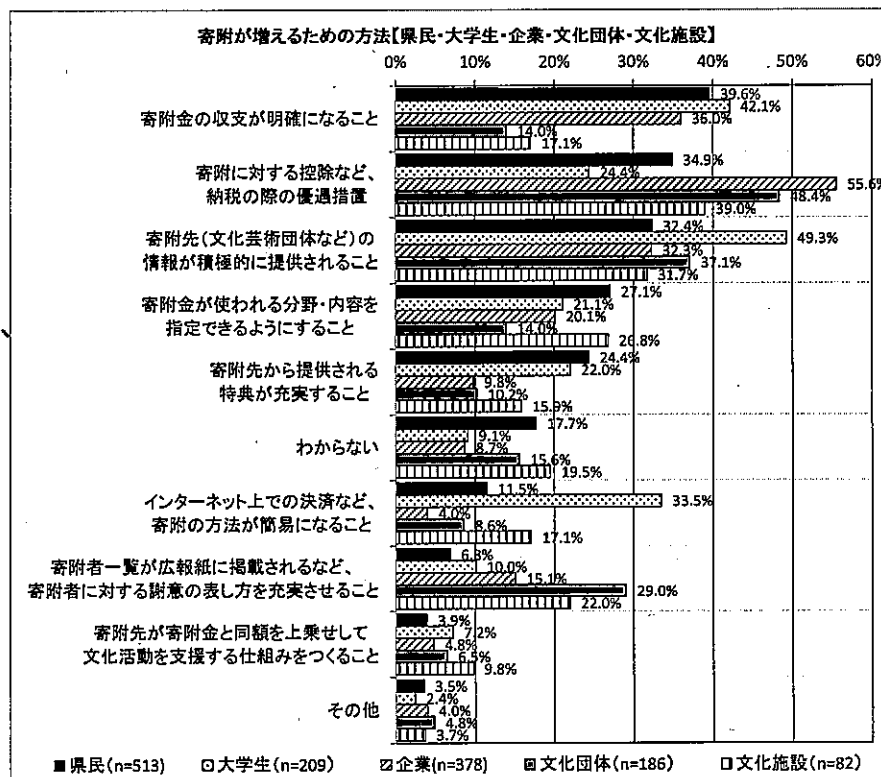
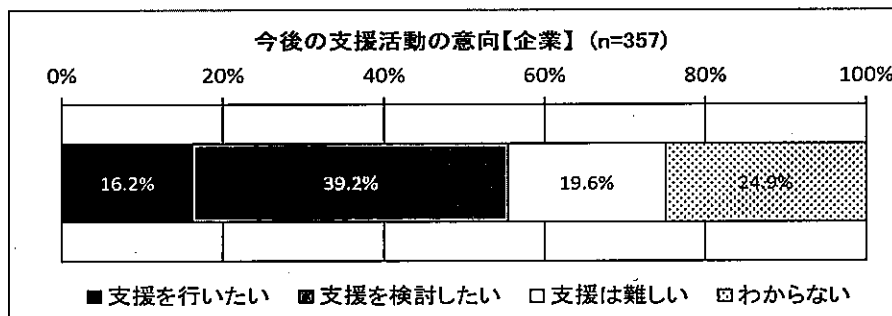
## 8 文化芸術活動に関わる寄附を行う人や企業を増やすための方法

県民では「寄付金の収支が明確になること」(39.6%)、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」(49.3%)となっています。

他方、企業、文化団体、文化施設では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」(55.6%) (48.4%) (39.0%)が最も高くなっています。

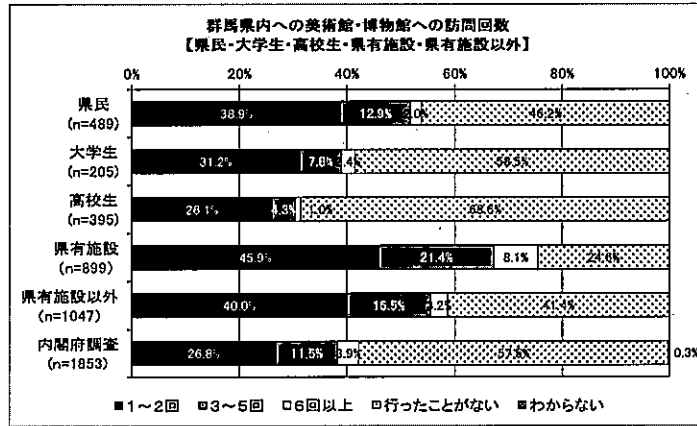
## 7 県民の文化活動に対する今後の支援

「支援を行いたい」と「支援を検討したい」を合わせると5割を超えており、県民の文化活動に対する支援を前向きに行いたいと回答しています。



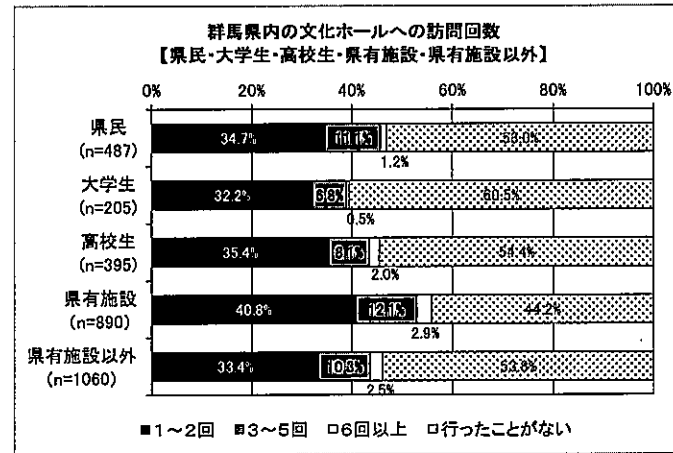
9 この1年の美術館・博物館の利用回数

県民(53.8%)、県有施設(75.4%)、県有施設以外(58.7%)とも、半数以上の人がこの1年間に美術館・博物館を1回以上利用したと回答しています。



10 この1年間の文化芸術の鑑賞などでの文化ホールの利用回数

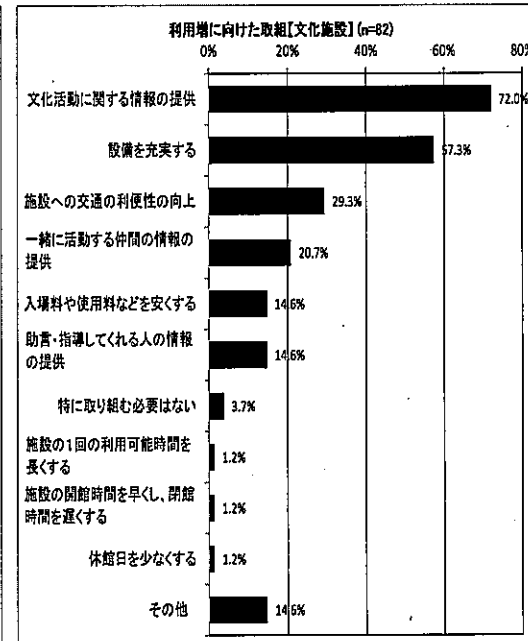
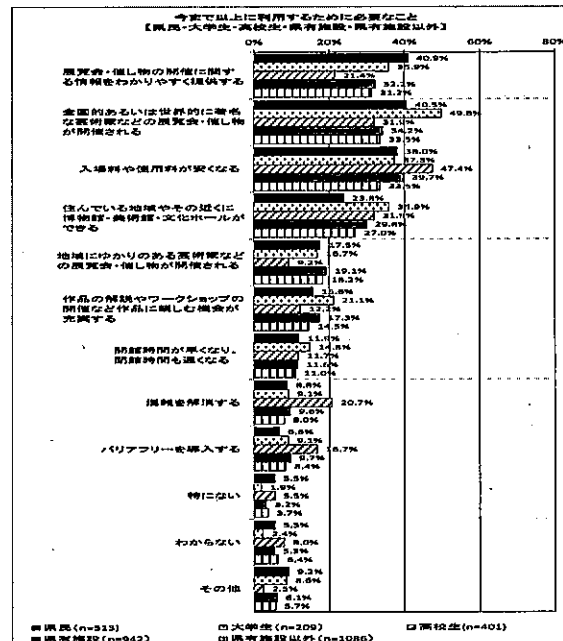
県民(47%)、県有施設(55.8%)、県有施設以外(46.2%)では、ほぼ半数近くの方がこの1年間に文化ホールを1回以上利用したと回答しています。



11 今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なこと

県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」(40.9%)、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」(49.8%)、高校生、県有施設、県有施設以外では「入場料や使用料が安くなる」(47.4%) (39.7%) (33.5%)がそれぞれ最も高くなっています。

これに対し、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」(72.0%)が最も高く、次いで「設備を充実する」(57.3%)となっています。



## 12 文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

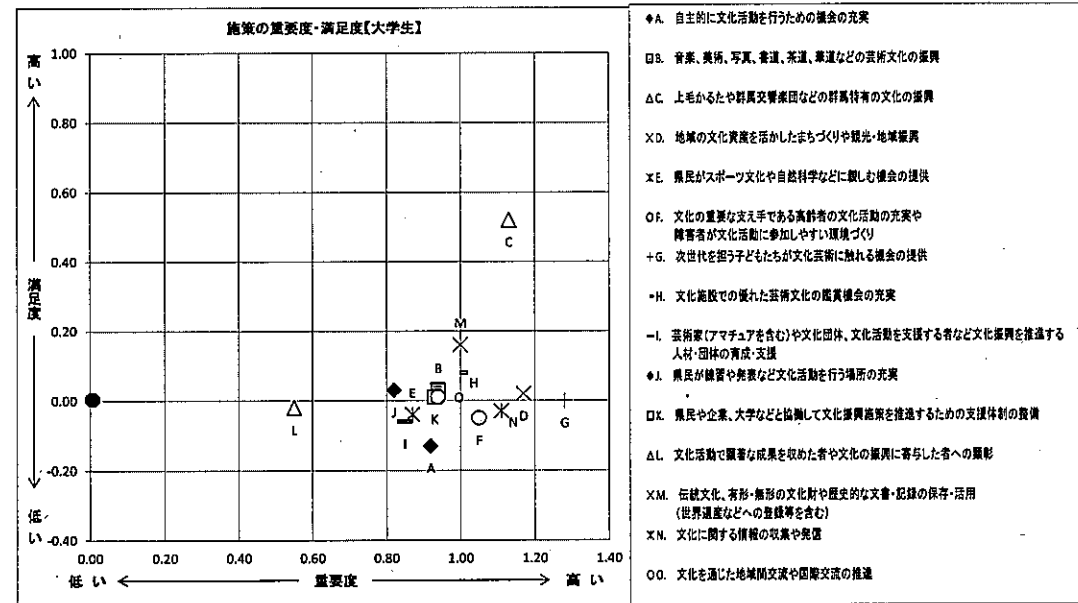
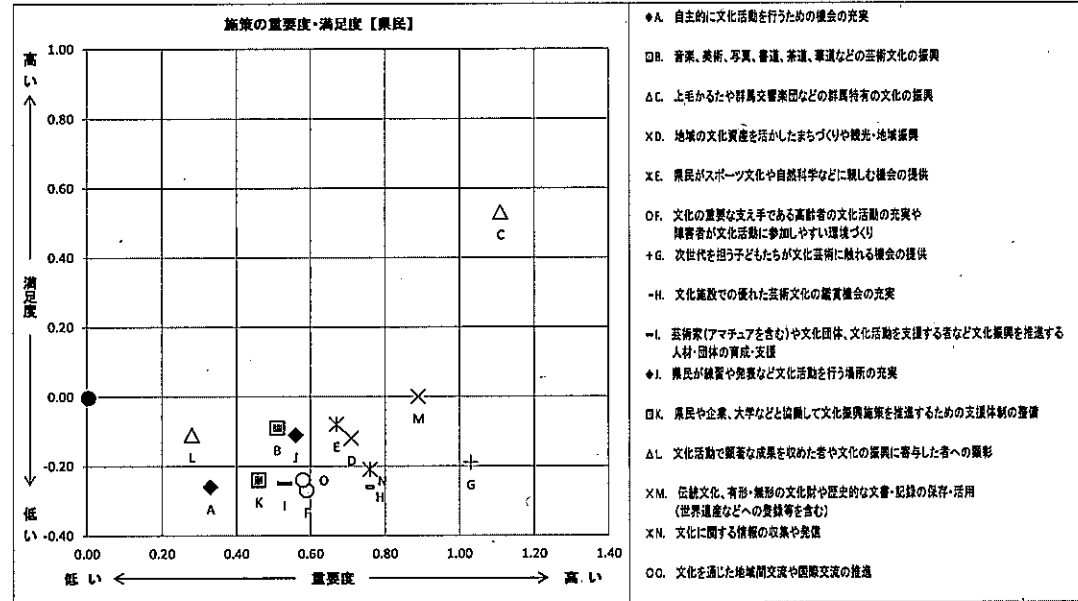
その他の項目については、重要度はすべて高くなっているが、満足度はすべて低くなる結果となりました。

中でも「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」は重要度は高いが、満足度は低い結果となっています。

大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

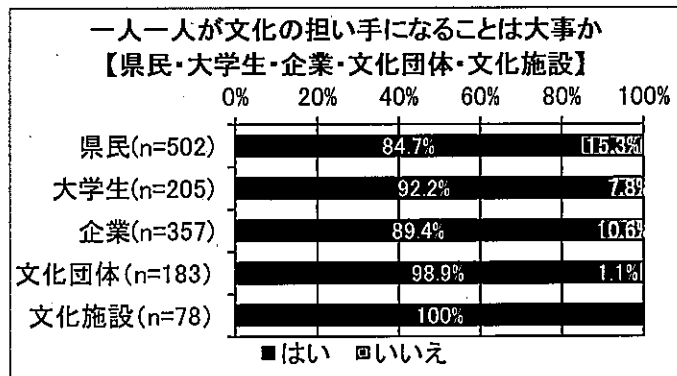
次に「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。

重要度では「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低くなりました。



### 13 文化の担い手について

一人一人が文化の担い手になることは大事だと思うかについては、全区分で「はい」を選択した割合が80%を超えており、一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えている人が多いことがうかがえます。



### 14 文化活動の自主性を尊重しつつ、活動が継続して行われていくために必要なこと

すべての区分において「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」となっています。

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設では県民の文化活動のために必要なことは同様の考えであることがうかがえます。

